

(株)東京ロストワックス工業
代表取締役社長

PICK UP

THE PERSON

内堀博

KEY WORD

輝く

— kagayaku —

航空機・発電所などの部品加工をメイン事業に、ロストワックス精密鑄造を手掛けている『東京ロストワックス工業』。同社の内堀社長は何よりも従業員を大切に思う人物だ。結婚や子育てを経る中でも従業員が長く働ける体制づくりに尽力し、育児休暇の整備はもちろん育児休暇後の短時間勤務など、サポートも充実させた。その結果、男社会というイメージの強い製造業にあって、同社の女性従業員の比率は36%と高く、女性の管理職も数多く活躍している。社長が目指すのは、男女関係なくスキルある人材が長く定着し、輝ける会社だ。



「従業員が安心して、長く働ける
会社にするには、経営者の務め」



TLW 株式会社 東京ロストワックス工業

新潟県長岡市東高見 1 丁目 2 番地 16
URL : <http://www.tlw.co.jp>

従業員を第一に考えた環境づくりで技術を継承する

新潟県長岡市に本社と3つの工場を構え、精密鑄造を手掛けている「東京ロストワックス工業」。メイン事業の他、特殊合金の製品の製造に着手した内堀社長は就任以来、事業や従業員の働き方などの改革を進め、約90名の従業員に安心して働ける職場環境を提供している。本日は、同社をタレントの松尾伴内氏が訪問。インタビューを行った。

ゲスト 松尾伴内

代表取締役社長 内堀博



埼玉県戸田市出身。大学卒業後は『三菱マテリアル』に入社。工場勤務として特殊な耐熱材料の既製品製造に携わり、約24年勤めた後、前職の同僚である現『ハヤカワカンパニー』の会長から声がかかり2011年に『東京ロストワックス工業』の常務に就任、その後専務を経て2020年1月1日付で社長に就任した。現在はロストワックス精密鑄造を柱に事業を展開する中で、特殊合金の製品の製造に着手するなど攻めの姿勢で事業に邁進している。



まずは内堀社長の歩みからお聞かせ下さい。
埼玉県戸田市出身です。新潟県には単身赴任として来まして、2021年の7月で10年になります。私は4姉弟の末っ子で、子どものころは一人で木工製品やプラモデルを作っては創意工夫し作り変えたり、虫眼鏡でなんでも観察したりなど、工作や理科に関することが大好きでした。当時は引つ込み思案で目立たない子どもだったのですが、将来的に経営者になるとは思っていませんでした。その後、理系の大学へ進学し、工学部に入って金属関係を学んだことで面白さを感じ、学んだことを仕事に活かしたいと思い、金属関係の会社を志望したんです。

社会への第一歩のお仕事は何をされたのですか。
非鉄金属材料メーカーの『三菱マテリアル』に入社し、工場勤務として得意だったニッケル合金やコバルト合金など特殊な耐熱合金を溶かして固める仕事に携わりました。その後はいろいろな工場に携わり約24年勤めました。しかし、後年は事業再編で手掛けていた事業の撤退が決まり、関西へ転勤の辞令が出たんです。

それは良かったです。やはり人あってこそですか。
また、当社の女性比率は36%と鑄造業ではかなり高い水準でして、銀行さんにも紹介されたことがあるんですよ。皆非常に優秀でむしろ男性を引っ張ってくれる存在です。男女の垣根なく現場も含めた皆さんが真面目にコツコツと仕事に邁進してくれることを考えると、女性にとっても、男性にとってもより一層働きやすい環境にしたいと思いますし、重量物や高熱作業など、男性が手掛ける仕事もたくさんあるため、男女比が良いバランスで若い人材を確保できたら良いと思います。

業界全体で、女性が活躍できるようになっていけば良いですね。
そうであれば嬉しいですね。今後も先端の技術を取り入れてお客様のご要望に応じていくことを意識し、長岡市で一番、新潟県で一番の企業を目指す構えです。

いいえ。当時は高齢の母と同居して、地元に残り母のそばに居てあげたいとの思いから早期退職制度を利用し、退職することにしたのです。そんな折、前職と一緒に働いていた『ハヤカワカンパニー』の早川社長が、同社のグループ企業である『東京ロストワックス工業』の代表を任せられる人材を探していたのです。それで『内堀が会社を辞めたらいい』と噂を聞き私の家に電話をくれたんです。私には母のことがあったため、しばらくは『ハヤカワカンパニー』の東京事務所で後方支援をさせていただく形で当社に関わり、その後当社の役員に就任し、今に至ります。

そうだったのですか。就任された当初はプレッシャーなどもあったでしょう。
実は、私は前職時代に事業撤退の移し先として当社を訪れて、従業員に製品の作り方などを教えていたんですよ。まさか後に自分が社長に就任するとは露知らず(笑)。技術開発部兼製造部部長の木村など、私が前職にいたころから当社に務めていた従業員は、一緒に仕事をしたこともあるんです。そのため、そこまで緊張やプレッシャーはありませんでした。

運命ですね(笑)。先ほど技術開発部長さんから、「社長」らしさのないフラン

check Point

▼航空機・発電所などの部品のロストワックス精密鑄造を手掛けている『東京ロストワックス工業』。1988年の創業以来、長岡市の地に根付いて地域雇用にも貢献し、確かな技術と人の成長によって成長を遂げてきた会社だ。2010年には、『ハヤカワカンパニー』のグループ会社となり、翌年には現内堀社長が常務取締役として経営参加し、中期事業計画を策定。それに基づき、さらなる事業拡大を目指す。
▼そんな同社は女性比率が36%と高く、女性が活躍できる会社であることが強みだ。結婚や出産を機に女性従業員が退職してしまうケースは珍しくない。しかし、同社では子どもの小学校入学前までの期間、短時間勤務を活用できる制度を導入した。「スキルのある人材に長く勤めてもらいたい」と社長。
▼社長は中小企業の小回りの良さを活かした制度改革を実現し、結果、女性が働きやすい職場環境づくりに成功している。「従業員が安心して、少しでも長く勤められる会社にするには経営者の務めです」と語る社長は、誰よりも従業員を大切に考えており、『東京ロストワックス工業』という1つのブランドを守り抜く構えだ。



松尾 伴内 (タレント) guest comment

「昨年還暦を迎えられたという内堀社長。日頃から皆さんに『私は後何年生きられるか分からないよ。後は君らが頑張らないと。頼んだよ』と話しているのだから。しかし、お話を伺って、年齢を感じさせないバワフルさと明るさに圧倒されましたよ。今後も従業員の皆さんと共に、元気に御社を盛り上げてほしいですね」